

平成 23 年度文化庁メディア芸術祭国内巡回事業

文化庁メディア芸術祭ネットワークス

長崎巡回が 2012 年 1 月 2 日（月・祝）より長崎県美術館にて開催！

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業では「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」と題し、全国の美術館やフェスティバルを巡回し、受賞作品の展示や上映を行うことで文化庁メディア芸術祭の魅力を紹介しています。

1 月 2 日（月・祝）から、長崎県美術館にて、「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」長崎巡回を開催します。長崎巡回では、文化庁メディア芸術祭のアート部門に焦点をあて、昨年度の優秀賞受賞作品である『10 番目の感傷（点・線・面）』を展示するとともに、作者であるクワクポリョウタ氏の創作活動や作品の魅力丁寧に紹介します。会期最終日の 1 月 8 日（日）には、同氏をお迎えしたトークショーを開催します。アートやエンターテインメントの垣根を横断する制作活動について語られる貴重な機会となります。

会場では、歴代受賞作品の変遷を軸に、文化庁メディア芸術祭の 15 年間の歩みも紹介します。また、会期中には、第 14 回文化庁メディア芸術祭の映像作品も上映します。アート、エンターテインメント、アニメーションの各部門から選ばれた、新しい視覚体験や表現の幅の広がりを感じさせる作品を集めたプログラムです。

開催概要

名称：平成 23 年度文化庁メディア芸術祭国内巡回事業 「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」
主催：文化庁
共催：岡山市デジタルミュージアム、COMITIA、神戸ビエンナーレ 2011、長崎県美術館
協力：TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING、せんだい演劇工房 10-BOX
事務局：CG-ARTS 協会（財団法人画像情報教育振興協会）

長崎巡回

会場：長崎県美術館（県民ギャラリー A・B 室 ほか）
会期：1 月 2 日（月・祝）～1 月 8 日（日）※会期中無休
開場時間：午前 10 時～午後 6 時
観覧料：無料
アクセス：〒850-0862 長崎県長崎市出島町 2 番 1 号
・路面電車 / 出島電停より徒歩 3 分、市民病院前電停より徒歩 2 分
・バス / 長崎新地バスターミナルより徒歩 5 分
・JR / JR 長崎駅より徒歩 15 分
・フェリー / 長崎港大波止ターミナルより徒歩 10 分
・車 / 長崎自動車道・長崎 IC より、ながさき出島道路経由で約 5 分
お問合せ：CG-ARTS 協会 文化事業部 03-3535-3501



他巡回情報は決まり次第、Web サイト「文化庁メディア芸術プラザ」
<http://plaza.bunka.go.jp/> でご案内します。

■ 広報に関するお問合せ先

CG-ARTS 協会 文化事業部 岩佐・木村 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 <http://www.cgarts.or.jp/contact/>

展示プログラム

■メイン展示

『10番目の感傷（点・線・面）』 クワクポリョウタ （第14回アート部門優秀賞）

光源が備えられた鉄道模型が、床に並べられた日用品の間をゆっくりと移動しながらその影を映しだします。部屋の壁や床、天井に映し出されたモノの影は、電車から見ている風景のように移り変わりながら観者を包み込みます。没入・鳥瞰、既視感・未視感といった、相反する体験を交互に繰り返す映像。知覚を研ぎ澄まし体験するインタラクティブアートです。



©クワクポリョウタ 写真：木島恵三
写真提供：NTT インターコミュニケーション・センター [CC]

イベント

文化庁メディア芸術祭ネットワークス トークショー

会期最終日の1月8日に、『10番目の感傷（点・線・面）』の作者であるクワクポリョウタ氏をお迎えして、トークショーを開催します。アートやエンターテインメントの垣根を横断して活躍されているクワクボさんご本人から、作品や活動についてお話を聴くことのできる貴重な機会となります。

出演：クワクポリョウタ（メディア・アーティスト）

日時：2012年1月8日（日）午後2時～（1時間程度）

場所：長崎県美術館 2階 ホール

参加方法：当日午前10時から2階ホール前にて先着順（100名）に整理券を配布します。



■クワクポリョウタ

1971年栃木県生まれ。98年に明和電機との共作『ビットマン』を発表して以来、エレクトロニクスを使用したメディアアート作品を国内外で発表。アナログとデジタル、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる関係性を、制作のテーマにしている。代表作に『ビデオバルブ』『PLX』『シリフリン』『ニコダマ』など。

上映プログラム

第14回文化庁メディア芸術祭の優秀な映像作品を上映します。アート、アニメーション、エンターテインメントの各部門から選ばれた、新しい視覚体験や表現の幅の広がりを感じさせる作品をお届けします。

※毎日90分プログラム×5回上映 上映会場：2階ホール（定員100名）※1月8日のみ講座室（定員50名）



1. ©石田 祐康



2. ©ピクチャーエンタテインメント株式会社 / 株式会社ヒップランドミュージック



3. ©ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ



4. ©和田淳 / 東京藝術大学



5. © Beomsik Shimbe Shim, all rights reserved

上映作品：『フミコの告白』 石田 祐康（アニメーション部門優秀賞） 画像1

『アルクアラウンド／サカナクション』 関 和亮（エンターテインメント部門優秀賞） 画像2

『夏を待っていました／amazarashi』 YKBX（エンターテインメント部門優秀賞） 画像3

『わからないブタ』 和田 淳（アニメーション部門優秀賞） 画像4

『The Wonder Hospital』 Beomsik Shimbe SHIM（アニメーション部門奨励賞） 画像5

『CITY』 KIM Young-geun / KIM Ye-young（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『The Homogenics』 Gerard FREIXES RIBERA（アート部門審査委員会推薦作品）

『Rush』 Maarten ROTS（アート部門審査委員会推薦作品）

『factory of dream- 夢を作る工場』 ユーフラテス（アート部門審査委員会推薦作品）

『海からの使者』 のすふえらとう（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『くちやお』 奥田 昌輝（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『Locus』 横地 政樹（アート部門審査委員会推薦作品）

『Shading』 飴田 慎士（アート部門審査委員会推薦作品）

『魚に似た唄』 竹内 泰人（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『Pico / SJQ』 土屋 貴史（TAKCOM）（エンターテインメント部門審査委員会推薦作品）

『ラストピース 花沢悦子編』 水野 貴信（エンターテインメント部門審査委員会推薦作品）

■文化庁メディア芸術祭について <http://plaza.bunka.go.jp/>

「文化庁メディア芸術祭」はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなどを対象にしたフェスティバルで、今年で15回目を迎えます。第14回では世界49ヶ国・地域から2,645作品の応募があり、受賞作品展には70,126名の来場がありました。今年度の受賞作品展は国立新美術館にて平成24年2月22日（水）から3月4日（日）まで開催します。